

第 19 号

1995年 9 月

岡山県古代吉備文化財センター

▲ 西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様



に あらて 百間川二の荒手の調査

旭川の洪水調整のための放水路として造られた百間川は、寛文9年（1669年）の着工後、貞享3年（1686年）の大改修によって、三カ所の荒手（越流堤）が整備され、現在にいたる基本的な姿となったと言われています。このうち二の荒手は、旭川との分岐点（一の荒手）から約300m下流に設けられた石積みの越流堤です。

今回の調査は、二の荒手を越流した洪水を下

流に導くために、荒手の両岸に設けられている導流堤の右岸部について行いました。築堤以来300年以上にわたり城下町岡山を守り続けてきた百間川の二の荒手は、洪水のたびに越流して傷みが激しく、幾度となく改修が繰り返されてきたようです。調査を行った導流堤でも、築堤当初の明瞭な遺構を確認することはできませんでした。（山磨康平）

最近の発掘調査から

ねぎし
岡山市根岸古墳の発掘調査

根岸古墳は岡山市竹原にありました。国道2号線から県道西大寺・瀬戸線に沿って南に下がると竹原交差点を通過します。さらに南へ進むと、道路の東に丘陵が連なるようになります。根岸古墳はこの丘陵の裾に単独で造られていました。丘陵裾に国道2号バイパスが建設されることとなり、発掘調査が実施されました。古墳は畑の開墾で大きな破壊を受けていて、その遺存はあまり良好ではないと予想されました。

発掘調査が進み、古墳の姿が明らかになってきました。墳丘の北半分は消滅し、西から南西部分は後世の山道によって大きく削られていました。しかし、わずかに残された東部分で、かすかに環状を描く古墳の堀が見つかり、円形の古墳であると推定することができました。また、西部分でも石室の先端はあまり破壊されていないように観察されましたので、墳丘の規模も推測することができました。根岸古墳は直径20m程度の円墳であったと考えられます。

根岸古墳の埋葬施設は、遺体を運び込む通路と遺体を安置する部屋からなる、横穴式石室でした。通路も部屋も一連のものとして大きな石を積み上げて造られ、石室の入口は西に向いていました。石室の全長は12.3m、最大幅は2.2m、天井までの高さは2.1mを測りました。大型の横穴式石室といえます。石室内を掘り下げていきますと、石室の床から25~35cm上方で固くしまった土に達しました。この土の上面には火を使った跡があり、整地された面と考えられます。奈良時代とみられる土器がこの面から出土しましたので、その時代には住居として利用されたのでしょうか。古墳の副葬品の多くはこの整地層から散乱して出土しました。石室の奥ではかなりの角礫が検出され、その間から副葬品も見つかりました。角礫は棺を置く台として使われたと考えられますが、当時の位置を保っているものはほとんどないようでした。

古墳の副葬品は整地層に封じ込まれたため、攪乱されてはいるものの、多くのものが残されたようです。装身具・武器・馬具・工具・土器が出土しました。装身具では、耳飾りである金環が6点と115点以上にのぼる玉類がありました。玉類はその数もさることながら、種類の多さが注目されます。碧玉製の勾玉・管玉・平玉、水晶製の切子玉、メノウ製の切子玉、そして大部分を占めるガラス製の管玉・丸玉・小玉と多種多様でした。武器では刀と鐵が出土しましたが、とりわけ重要な遺物として金銅装大刀の部品があります。銅の地金に金メッキを施した飾り大刀で、権威の象徴として保持されたのでしょう。馬具も金銅装でした。



根岸古墳全景（西から）

このように、根岸古墳からは多数の副葬品が出土し、石室の遺存状態も予想よりは良く、多くの資料を得ることができました。金環の数から埋葬された人は三人以上であったと思われまます。金銅装大刀の部品や玉類は石室の中央付近から入口側に散乱していましたので、二番目か三番目以降に埋葬された人が身に付けていたとみられます。大規模な石室や多種多様な副葬品から、根岸古墳はこの地域におけるきわめて有力な人物の墓と考えられますが、周辺には他にこれといった古墳もなく、その出身についてはこれからの検討課題です。（岡本寛久）

おおひばたやまじょう
岡山市大日幡山城 出城ほか発掘調査

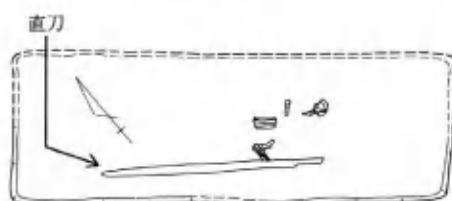
大日幡山城の出城跡は岡山市の東端、邑久郡長船町との境界近くに位置する大日幡山の尾根上に立地しています。岡山県広域水道企業団による浄水場建設に伴って分布調査を行った際、調整池の建設地に中世の山城が、またこれに至る道路の用地内に古墳が2基確認されました。

古墳群の調査では、2基の古墳は馬の背になった尾根上に接するようにつくられていました。寺山7号墳は、直径9m弱の円墳で、木棺直葬の主体部から直刀をはじめ、馬具の轡部分と思われる鉄製品が出土しました。時期は5世紀後半～6世紀初めごろと考えられます。寺山8号墳は、同規模で主体部に箱式石棺をもっていました。しかし、主体部は盗掘をうけていて時期は不明ですが、土層観察による切り合い状況などから7号墳より以前に造られたものと思われる。

一方、出城跡は本丸跡と言われている丘陵の最も高い地点から南東側にのびる尾根の頂上部に位置しています。郭面上は、柱穴と思われる穴が全体に散在しているだけで、現状では建物などは確認できませんでした。郭面以外の遺構としては、郭面を本丸側に下りた尾根の両側から挟り込むように削られた堀状の溝が認められました。この掘り込みによって、尾根の上面は人一人通れるぐらいに狭くなっていて、攻めに



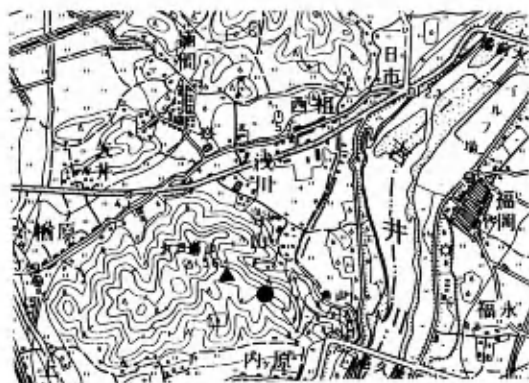
寺山古墳群 平面図 (S=1/400)



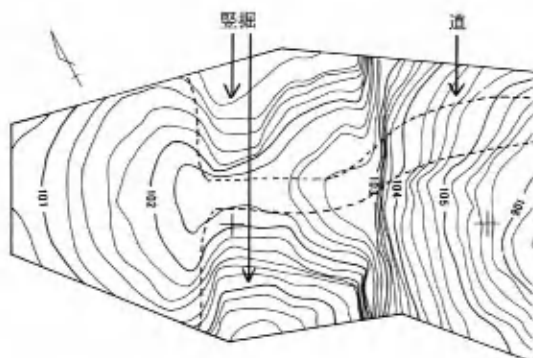
寺山7号墳 主体部 (S=1/40)

くく守りやすい地形になっていたと思われる。その地点を過ぎるとやや広くなった平坦面が形成されていた。

大日幡山城は、戦国時代末期に松田氏と浦上氏の間で行われた福岡合戦で、松田方に加勢した備後の山名氏が陣を構えたところだ。今回調査を行った出城跡は、見張り台か兵士の集結の場のような役割を担うために造られたものではないかと思われる。(根木智宏)



▲ 出城跡 ● 古墳群
遺跡位置図 (S=1/50,000)



出城跡地形測量図 (S=1/300)

なか 矢掛町中散布地の発掘調査

中散布地は、小田郡矢掛町の南東部、小田川を北にのぞむ丘陵北裾部に位置しています。弥生時代から古墳時代の墳墓群として有名な芋岡山墳墓群に近接した位置にあります。調査地点には、弥生時代から中世の遺物が散布していることが知られていましたが、今回、主要地方道倉敷成羽線の建設に伴い、平成7年4月に確認調査、引き続き、同5月から7月にかけて遺跡推定範囲約400㎡を対象とする全面調査を行いました。

発掘調査の結果、縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代、中世、近世の各時代の遺構や遺物が確認されました。縄文時代のものとしては、縄文晩期の土器の小片が出土しているのみですが、弥生時代では、竪穴住居1軒、土器棺墓1基、土壇墓約10基など、多数の遺構が検出されています。いずれも弥生時代後期を中心とする時期のものと考えられます。土器棺は、丹塗りの壺に丹塗りの鉢で蓋をしたものです。遺物では土器のほかに、石斧、石鏃などの石器が出土しています。

古墳時代では、竪穴住居1軒などが検出されました。竪穴住居は古墳時代前期のもので、平面形は方形を呈し、土師器片が出土しています。そのほか、遺構は確認できませんでしたが、7世紀代の須恵器や水晶製の切子玉などが調査区内から出土しており、終末期の古墳が破壊された跡かと思われます。

中世では、土器多数をおさめた土壇が確認されています。長さ約150cmの長方形の土壇に、土師質の碗が6個、皿が20数枚おさめられていました。この土壇の性格は不明ですが、墓であった可能性も考えられます。また包含層から、この時代の中国からの輸入陶磁器である青磁、白磁の破片などが出土しています。

近世では、掘立柱建物1棟のほか、土壇が多数検出されました。遺物では近世陶磁器、瓦、鉄釘などが出土しています。

今回は非常に狭い面積の調査でしたが、以上



竪穴住居（弥生時代後期）



土器棺墓（弥生時代後期）



土壇墓群（弥生時代後期）

のように、さまざまな時期の遺構、遺物が確認され、この地点が長い時代にわたって、ある時期には居住域として、ある時期には墓地として利用されていた様子がわかりました。また、弥生土器などの出土遺物も、備中南西部の貴重な資料を提供するものとして注目されます。

(尾上元規)

八束村下長田上野遺跡・上野古墳群の調査

下長田上野遺跡・上野古墳群は岡山県の最北端、蒜山盆地の東部に位置する、真庭郡八束村下長田に所在します。蒜山盆地には多くの遺跡が発見されていますが、とりわけ下長田上野遺跡周辺には戸谷遺跡や東遺跡をはじめとする先土器時代の遺跡が多く、また著名な四つ塚古墳群も所在します。

さて、発掘調査は一般国道313号犬伏峠の改良工事に伴うもので、4月6日から5月9日まで実施しました。

先土器時代の遺跡は、古墳の調査が終了した段階で、試掘溝を設定して掘り下げた結果、現地表から1mあまり下に厚さ約20cmの始良火山灰層が認められ、その直下から石器類が発見されました。

石器類は3箇所にとまっています。1つ1つのまとまりをブロックといますが、3箇所のブロックは南北15m程の範囲に北からAブロック、Bブロック、Cブロックと並んでいます。各ブロックには径約4mの範囲に石器類が集中していて、石器製作ないし製作後の廃棄の単位を反映するものと思われませんが、さらに一歩進めて、住居と考える意見もあります。この住居とする意見に従えば、各ブロック間で石器類が接合することから、3箇所のブロックは同時期と考えられ、3軒の住居が存在したことになります。

石器類は全部で250点あまり出土しました。この内9割以上はおそらく周辺で産出すると思われる石英が用いられており、残りわずかが頁岩や安山岩などの石材でした。石英は原石、石核、剥片が認められることから、ここで石器製作が行われたと推定されますが、頁岩等は剥片しか認められないことから、他の場所で剥離されたものが持ち込まれたものと思われれます。ただ、成品が1点も出土していないことと、大多数を占める石英の質が悪く、石器に適した剥片が剥離されていないことから、ここで成品まで加工された可能性は低いものと思われれます。



先土器時代の石器ブロック

また、縄文時代の遺構と推定される土壌が2基発見されました。この内の1基は径が2m、深さも2mあまりありますが、いずれもほぼ垂直に掘り込まれており、この地域で多く発見される落とし穴と考えられます。

古墳時代の遺構としては、上野1号墳の墳丘の下から、2基の土器棺墓が発見されました。いずれも日常使用していた土器を棺に転用したもので、土器棺1は壺を鉢で、土器棺2は壺を甕で蓋をし、土中に直接埋めていました。おそらく乳幼児を埋葬したものと思われれます。

古墳はいずれも墳丘が削平されていたため、埋葬施設は残っていませんでした。しかし、墳丘を画する溝が掘られていたため、辛うじて古墳の形などが判明しました。2基の古墳は1部周堀が重なるように南北に並びます。南側に位置する1号墳は、周堀が弧を描くように掘られていることから、径10mあまりの円墳と推定されます。

北側の2号墳は、周堀が方形にめぐることから、1辺10mあまりの方墳と思われれます。この2号墳の周堀の中からは、小型丸底壺や高杯等が出土しました。この土器は周堀がある程度埋没してから置かれたものですが、5世紀後半頃のものと考えられることから、古墳の築造された時期もほぼその頃と推定されます。

(平井 勝)

普及啓発事業

— 「最近の岡山県下における 埋蔵文化財発掘調査概要の報告会」 —

当センターでは、埋蔵文化財についての認識を深め、その重要性を理解していただくために前年度に行った発掘調査の成果をスライドを用いて説明する概要報告会を開催しています。

本年は、参加者の増加が見込まれたため、会場を岡山県立博物館の講堂から岡山県総合文化センターのホールに移しました。当日は、厳しい残暑の中にもかかわらず、200名を上まわる方々が参加し、熱心に耳を傾けていました。

当センターでは、広く一般の方に埋蔵文化財に対する理解を深めていただくため、今後ともこのような会を開催していく予定です。多くの方の参加をお願いします。

なお、当日の要項は以下のとおりです。

1. 日時 8月19日(土) 13:30～16:30
2. 場所 岡山県総合文化センター ホール
3. 報告遺跡
 - (1) 南方(済生会)遺跡 岡山市教育委員会



- | | |
|-------------------|----------|
| (2) 上伊福西遺跡 | 当文化財センター |
| (3) 小中遺跡ほか | 当文化財センター |
| (4) 大年古墳群 | 当文化財センター |
| (5) 鬼城山(鬼ノ城)第一城門跡 | 総社市教育委員会 |
| (6) 関戸廃寺 | 笠岡市教育委員会 |
| (7) 大田茶屋遺跡 | 当文化財センター |
| (8) 岡山城二の丸跡 | 同調査委員会 |
- (小嶋善邦)

平成7年度「夏休み少年考古教室」

当センターでは、郷土の歴史に親しみ、埋蔵文化財の保護意識を高めることを目的として、小学校高学年の児童を対象に「夏休み少年考古教室」を毎年1回開催しています。

今年度も昨年度に引き続き、県内の小学校6年生の児童を対象として参加者を募集したところ、38名の応募がありました。当日は5名の欠席者があり、最終的な参加者は33名となりました。その学校別の内訳は、岡山市立庄内小学校6名、御南小学校5名、桃丘小学校3名、小串小学校2名、三門小学校2名、西大寺南小学校2名、西大寺小学校1名、操南小学校1名、

日程表

第1日目 8月8日(火)		第2日目 8月9日(水)	
10:00	開講式	10:00	体験学習①
10:20	センター施設見学		・火おこし
11:10	考古学入門講座		・土器を使った塩づくり
12:00	昼食	12:30	・土器を使った煮炊き
13:00	体験学習①		昼食
	・土器の復元	13:30	古墳の見学
15:00	・土器の文様復元		・観音古墳の見学
15:55	明日の予定	15:20	閉講式
16:00	解散	15:30	解散



開講式



土器の復元



遺物復元室の見学



火おこし



考古学入門講座



煮炊き

東睦小学校1名、真備町立筒田小学校4名、玉野市立築港小学校1名です。

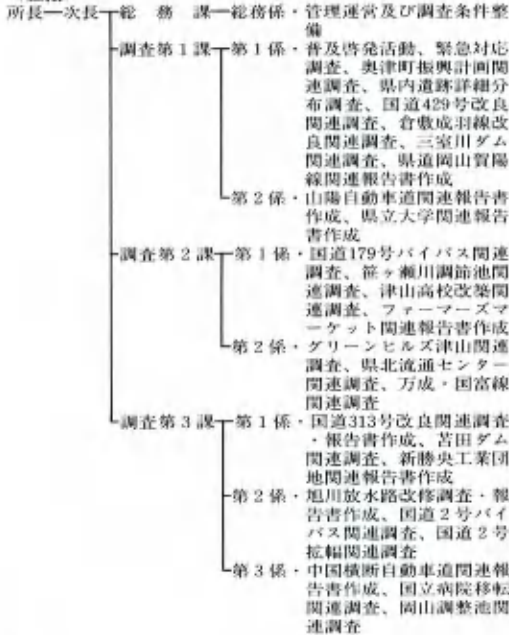
今年度の「夏休み少年考古教室」は8月8日・9日の二日間にわたって実施しました。1日目は室内学習で、午前中はセンターの施設を見学し、考古学の入門講座を聴いて考古学の方法や発掘調査について学習しました。午後は室内における体験学習で、土器片を接合して復元したり、粘土を使って土器の文様のつけたをまねてみる文様復元を行いました。

2日目は野外での体験学習で、午前中は火おこしから始めて土器を使った煮炊き、塩づくりをし、実際に食べてみました。なかなか火のつかない班もあり、火おこしの難しさを実感していましたが、なんとか煮炊きができたときの喜びは大きかったようです。午後はセンターの近くにある観音山古墳を見学しました。

たいへん暑い中での学習となりましたが、郷土の歴史や昔の人の生活に興味をもって取り組んでもらえたように思います。(尾上元規)

岡山県古代吉備文化財センターの組織と職員(平成7年度)

<組織>



<職員>

所長	河本 清
一次長	高塚 恵明
総務課長	葛原 克人 (文化課本務)
総務係長	丸尾 洋幸
課長補佐(係長)	井戸 丈二
総務主幹	守安 邦彦
主幹	石井 善晴
主任	木山 伸一
主任	都須 一士
主任	滝澤 幸隆
主任	渡邊 浩
主任	浅野 善次
調査第1課長	正岡 睦夫
調査第1課 課長補佐(係長)	松本 和男

文化財保護主任	宇垣 匡雅 (博物館兼務)
文化財保護主事	遠矢 英樹 (文化課本務)
主事	氏平 昭則
主事	物部 茂樹
主事	小嶋 元規
主事	善邦
第2係 課長補佐(係長)	岡田 博
文化財保護主査	光永 真一
文化財保護主任	大村 俊幸
文化財保護主事	亀山 行雄・大橋 雅也
主事	山本 晋也
主事	谷口 広幸
主事	藤田 杉山 一雄
主事	東美
調査第2課長	伊藤 晃
第1係 課長補佐(係長)	井上 弘
文化財保護主幹	浅倉 秀昭
文化財保護主査	二宮 治夫・木原 義明
文化財保護主任	小畑 良治・塩堂 守
文化財保護主事	山本 昌彦
主事	樋口 雅夫・金田 善敬
主事	佐藤 寛介・日下 隆春
第2係 課長補佐(係長)	福田 正継
文化財保護主査	中野 雅美・易 伯通
文化財保護主任	島崎 東
文化財保護主事	大柳 浩・植月 康雅
主事	可児 巧
主事	伊東 孝・宮野 義治
主事	岡本 泰典 (兵庫県派遣)
主事	前田 能成
調査第3課長	柳瀬 昭彦
第1係 課長補佐(係長)	平井 勝
文化財保護主幹	下澤 公明
文化財保護主任	谷本 琢広
文化財保護主事	弘田 和河・高田 恭一郎
主事	久保 忠里子
主事	高見 生朗
第2係 課長補佐(係長)	岡本 寛久
文化財保護主幹	山崎 康平
文化財保護主査	内藤 善史・中務 和彦
文化財保護主任	三宅 勝己
文化財保護主事	澤山 孝之
第3係 課長	江見 正己
文化財保護主査	平井 泰男・植野 芳典
文化財保護主任	小延 祥夫・東呂木 博
文化財保護主事	渡邊 泰夫
主事	根本 智安・蛇原 啓介



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-01
 岡山市西花尻1325-3
 電話 (086)293-3211

●交通案内

- ・ J R 山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
- ・ J R 吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- ・ J R 岡山駅下車岡電バス岡山駅前より
 神道山行終点下車徒歩5分